

表現するということ ～2年生C類型の授業から～

6月21日（火）、2年生C類型（コンピューター・コミュニケーション類型）「メディア・デザイン」の授業に、柏原の岡林写真館社長を特別非常勤講師としてお招きし、映像を使った表現について学習しました。

今回の授業に先立ち、岡林社長には6月7日の授業で、「絞り」「シャッタースピード」「広角・望遠」といった写真撮影の基礎技術とデジタル一眼レフの仕組みや使い方について指導していただきました。そして、6月12日の体育大会で、この授業を選択している8名の生徒が実際に競技の様子を撮影しました。



今日の授業では、それぞれの生徒が自分の撮影したたくさんの写真の中からよく撮れていると思う5枚の写真を選び、それをプロジェクターで投影しながら岡林社長から構図やアングル等について講評とアドバイスをもらいました。私も授業を参観しましたが、生徒たちの写真は、初めてにしてはなかなかよく撮れており、先生方が大会の進行をしながら撮影した写真よりも良いものがたくさんありました。

岡林社長からは、「競技のスピード感が出ること」、「一生懸命がんばっている生徒の表情をとらえること」が大切であり、「自分は何を表現したいのかを考えて構図を決めること」、「必要のないものが映り込まないようにすること」といったアドバイスをいただきました。また、そのためには、はずかしがらずに一步前に回り込んで撮影する気持ちが大切だという指摘は、写真撮影に限らず学校生活のすべてに当てはまる気がしました。

映像には文字以上にたくさんの情報が入るため、自分は何を表現したいのかをしっかりと考えてそれを絞り込んで撮影しないと良い写真は撮れません。そのためには自分の意図を明確にして一步踏み込んで対象に迫っていくことが必要であるというお話はなるほどと思いました。

今後の授業では、画像処理・編集のソフトウェアを使って撮影した写真を加工し、氷上西高校のPRポスターを制作してもらいたいと考えています。そこでは、適切なキャッチコピーを考えてデザインする、写真をトリミングして貼り付ける等の活動をとおしているようなスキルが習得できます。

秋には、青垣の美しい自然を撮影し、丹波の魅力が発信できる風景写真を作成したいと考えています。小規模校だからこそできる多様な学びの機会です。

（校長 高橋信之）